

編集後記

雪と氷のスポーツ祭典、第22回冬季ソチオリンピックは、2月23日、17日間にわたる熱戦が閉幕しました。日本の成績は、1998年の長野オリンピックの10個に次ぐ歴代2位の8個のメダルを獲得しました（国外で開催されたオリンピックでは最多のメダル数）。ソチオリンピックでは、ロンドンオリンピックと同様に日本代表チームに対する JISS（国立スポーツ科学センター）を中心としたスポーツ科学を活用したトレーニングや現地でのマルチサポートハウスの開設等、支援活動の充実が挙げられます。今回、日本選手の特徴は、世代を超えた活躍が目立ちました。東海大学学園からも卒業生4選手が出場しました。とくに、葛西紀明選手（東海大学付属第四高校卒業）はスキージャンプ・ラージヒルにおいて個人で銀メダル、団体で銅メダルの獲得、日本冬季オリンピックメダリストの最年長記録（41歳）、さらに、次の平昌オリンピックを目指す考えも表明するなど、学園に明るい話題や感動を提供してくれました。東海大学の一教員として、改めてソチオリンピックに出場された4選手に深く感謝申し上げるとともに、今後の活躍を期待しています。

本研究所では、東海大学独自のスポーツサポートシステム（トレーニング部門、科学サポート部門、メディカル部門、メンタルサポート部門、栄養サポート部門）により、総合的立場から各競技団体や選手強化に関する支援活動の更なる充実を図り、その成果がスポーツ現場により多く活かされるよう努力していきたくと考えています。2013年度は、学内スポーツ活動に対する総合的支援システムの構築と運営に関して、体育学部及びスポーツ教育センターとの協力体制を継続し、既存システムの点検と組織の再構築を行い、効果的運用を推進しました。さらに、本年度からは、大学院体育学研究科との連携を強化し、大学院生の参画の促進と研究面における一層の充実を図りました。

さて、東海大学スポーツ医科学雑誌は、本年度で第26号の刊行となりました。本号には、前号と同様にスポーツサポートシステム及び人工的高地トレーニングシステムにおける重点活動から得られた研究成果を含めて、運動生理学、バイオメカニクス、スポーツ方法学、トレーニング方法学、体育教育学、臨床スポーツ医学などの広範囲なスポーツ医科学の領域で、15編の論文が掲載されています。

今後もスポーツ医科学に関する基礎的な研究は勿論、競技力向上、健康維持増進や社会還元に貢献できるような実践的な研究も投稿されることを期待しています。本誌発展のために、皆様方の益々のご協力と積極的なご意見をお寄せ頂きますようお願い致します。

最後に第26号刊行にあたって、ご寄稿を頂きました皆様方に厚くお礼申し上げます。

編集委員長 寺尾 保